



岩五だより



江戸川区立小岩第五中学校
令和8年度 学校だより
～ 10月号 ～
令和8年10月14日発行

～実り多き秋にしよう～

校長 前本 大智

小岩五中の保護者の皆様、そして生徒の皆さん、こんにちは。厳しい夏の暑さがようやくやわらぎ、校庭に吹く風に爽やかな秋の気配を感じる季節となりました。ほのかに金木犀の香りもしています。秋は昔から「実りの秋」「読書の秋」「芸術の秋」などと「〇〇〇…の秋」と言われてきました。この〇〇に入る言葉は、人それぞれでしょうが、中学校生活にとっても一年のうちで最も何をするにも取り組みやすく、自分を高めていきやすい大切な時期です。

今月号の学校便りでは、秋の行事や学習への取り組み、そして「なぜ今、私たちは勉強するのか」ということについて、身近な出来事や世の中の出来事も踏まえて皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

1. 心を一つに響かせる「文化的表現」― 合唱コンクールに向けて

秋の一大行事といえば、皆さんが楽しみにしている（そしてちょっぴり緊張している）合唱コンクールではないでしょうか。放課後になると、校舎のあちこちから重なり合う歌声や、パート練習での話し合いの声が聞こえてくるようになります。



合唱は、実に奥深く魅力的な芸術です。一人ひとりがどれほど素晴らしい声を持っても、自分勝手に大きな声を出すだけでは美しいハーモニーにはなりません。自分の声を出しつつも、隣の友だちの声に耳を傾け、音程やリズム、そして「歌を通して、何を表現するのか」という心を通わせることで、聞く人の心を揺さぶる最高の歌声が生まれます。

歌が得意な人、少し苦手な人、声変わりで思うように声が出ない時期の人など、誰もがそれぞれの課題を抱えています。しかし、互いの違いを認め合い、支え合いながら練習を重ねる過程こそが、合唱コンクールの本当の良さだと思います。本番のステージで全員の心が一つになった瞬間の感動は、最高の宝物になります。小岩五中生の歌声をぜひ、体育館中に響きわたらせてください。今から楽しみにしています。

2. ひたむきな「学習に向かう心」― 自分の現在地を知るチャンス

行事の熱気と同時に、秋の後半というか2学期の締めくくりには、「期末試験」もあります。「試

験」と聞くと嫌だなと感じるかもしれませんが、見方を少し変えてみると

試験とは、誰かと競い合って優劣をつけるためだけのものではありません。これまで自分が歩んできた学習の道のりを振り返り、どこまで理解できたか、どこでつまづいているかを確認する大切な診断機会です。

期末試験に向けた計画的な準備は、まさに実りの秋にふさわしい「収穫作業」です。毎日コツコツと積み重ねてきた努力は、必ず自分の知識や技能という確かな実となって結実します。計画を立て、苦手な分野から逃げずに一つひとつ課題をクリアしていく経験は、試験の点数以上に「自分をコントロールする力」を育んでくれます。

3. 「なぜ中学生は勉強するのか？」— 学びの本質と人類の英知



ここで、皆さんに一度立ち止まって考えてほしいことがあります。

「なぜ、中学生は毎日学校に来て、時に困難を伴う学習に精一杯取り組まなければいけないのでしょうか？」

「目の前の試験や進路のため」という理由も確かにあるでしょう。しかし、もう少し視点を高くもち、私たちが生きている現代社会や地球全体に目を向けてみます。

この夏、私たちの記憶にも新しい激しい大雨や豪雨による自然災害が各地を襲いました。地球温暖化や気候変動の波は、私たちの日常に確実に押し寄せています。海水温の上昇によって、これまで近海で獲れていた魚の生息域が変わり、食卓や地元の産業にも大きな影響を及ぼしています。さらに世界を見渡せば、国と国との対立や戦争、AI（人工知能）の急速な台頭など、現代社会は先行きが見えず、明確な「正しい答え」が存在しない複雑な課題に満ちあふれています。

正解のないことを前にすると、人は誰しも不安になり、安易な情報や一時的な流行に飛びつきたくなるかもしれません。しかし、決して焦る必要はありません。目まぐるしく移り変わる流行りものに目を奪われることなく、静かに足を地につけて学び続けることこそが大切なのです。

教科書に載っている国語、数学、英語、理科、社会、芸術などの学習は、一朝一夕に作られたものではありません。それは、人類が数千年の悠久の歴史の中で試行錯誤を重ね、脈々と積み上げてきた「人類の結晶」です。

理科で自然の摂理を学ぶのは、地球の異変を科学的に解き明かし、環境と共生する智慧を得るためです。

社会（歴史・地理・公民）を学ぶのは、過去の失敗や成功を学ぶことで、現代の紛争や社会問題の根底にある文脈を深く解釈するためです。

言葉（国語・英語）を学ぶのは、異なる背景を持つ人々と対話し、理性的かつ平和的に意志を通わせるためです。

数学で論理を理解するのは、氾濫する情報に惑わされず、物事の本質を冷静に見抜く思考力を養うためです。

一見すると難解に思える人類の英知に正面から取り組み、地道に知識を修めていくこと。それこそが、一步一步、世界を正しく見つめる作業であり、不可能な正解のない難問に対し、解決への確かな糸口を見出す鍵となると思います。

4. 「精一杯取り組む」ことが生み出すこれからの人生の土台

中学生という多感な時期に、何事にも「精一杯取り組む」ことには極めて重要な意味があります。

合唱の練習も、期末試験の勉強も、行事も、時には「これくらいでいいや」と妥協したくなることもあるでしょう。しかし、最初から自分の限界を定めてしまつては、自身の中に眠る豊かな可能性を閉ざしてしまうことにもなります。

結果がどうであれ、自らのもてる限りの力を尽くして物事に向き合った経験は、成功した時には「揺るぎない自信」となり、壁にぶつかった時には「再び立ち上がる再挑戦のしなやかさ」を育みます。小岩五中生は、将来どのような激動の時代や予期せぬ変化が訪れようとも、過去の歴史に学び、目の前の課題に精一杯向き合える人であってほしいです。

最後に

中学校生活の3年間は、長い人生において見ればほんの一瞬に過ぎません。しかし、この秋に、全力で何かに取り組んだという豊かな感情、そして仲間と励まし合った記憶は、皆さんの人生の未来をえる「強い根っこ」となります。

- ・合唱コンクールでは、仲間とともに創り上げる歓びを感じよう。
- ・日々の学習や期末試験では、学ぶことの意味を考え、自分のもつ全力で取り組もう。

小岩五中の生徒の皆さんがそれぞれの場面や場所で情熱を傾け、実り多き豊かな秋になりますことを心より期待しています。保護者の皆様におかれましても、日々、たくましく成長していく生徒たちを、温かく、そして力強く支えていただき本当にありがとうございます。今月も、小岩五中生の活躍に、どうぞご期待ください。

(表彰の記録)

バドミントン部

秋季バドミントン江戸川区民大会

女子シングルス 第1位 (2年)

女子ダブルス 第3位 (2年) (2年)



江戸川区秋季総合体育大会 バドミントンの部

女子シングルス 第3位 (2年)

女子ダブルス 第2位 (2年) (2年)

団体女子 第3位

(全て2年)

ソフトボール部

江戸川区夏季総合体育大会 ソフトボールの部 優勝

(3年) (3年)

(3年) (2年)



剣道部

第6部ブロック秋季剣道大会男子個人の部 第3位

(2年)



卓球部

(2年)

江戸川区春季区民大会卓球の部 第9位

江戸川区夏季総合体育大会卓球の部 第3位

江戸川区秋季総合体育大会卓球の部 準優勝



社会を明るくする標語コンクール 秀作

すてきだよ
笑うあなたの
そのすがた
三年